

2020

冬期募金

世界の人々と、共に生きるために
JOCSの保健医療活動にご協力ください。

絵を描くジョシム（バングラデシュ）



mtc
JOCS

医療を通じて、愛を世界へ。

公益社団法人
日本キリスト教海外医療協力会
JAPAN OVERSEAS CHRISTIAN MEDICAL COOPERATIVE SERVICE

優しさという翼に乗って、 心は世界を駆け巡る

Bangladesh派遣ワーカー 岩本直美 (看護師)



「ハロー。私、ジョシムの弟の母親だけ」と、カナダからの電話を受けたのは今年の初冬のことである。私はすぐに、それが十数年来待ち焦がれていた電話であること悟り、身体中から泡が湧き出るのを感じた。そして電話を切られては困ると思い、とにかく、まずこちらの願いを伝えたいと必死の思いで携帯電話を握りしめた。「マダム、私たちは、一目でいいのでジョシムを自分の弟に会わせてやりたい、ただ、それだけなんです。ジョシムにとっては、世界でたった一人の肉親なんですから。他のことは何も望んでおりません」

私の必死の訴えが通じたのか、その女性は確かな声音で言葉を続けた。「私が責任

を持ってジョイをジョシムに合わせるから。ジョイには全部話してあるのよ。障がいのある兄がいることも、あの子は知っているわ。でもジョイはまだ微妙な年頃だから、大人になるまでもう少し待った方がいいと思っているのよ」

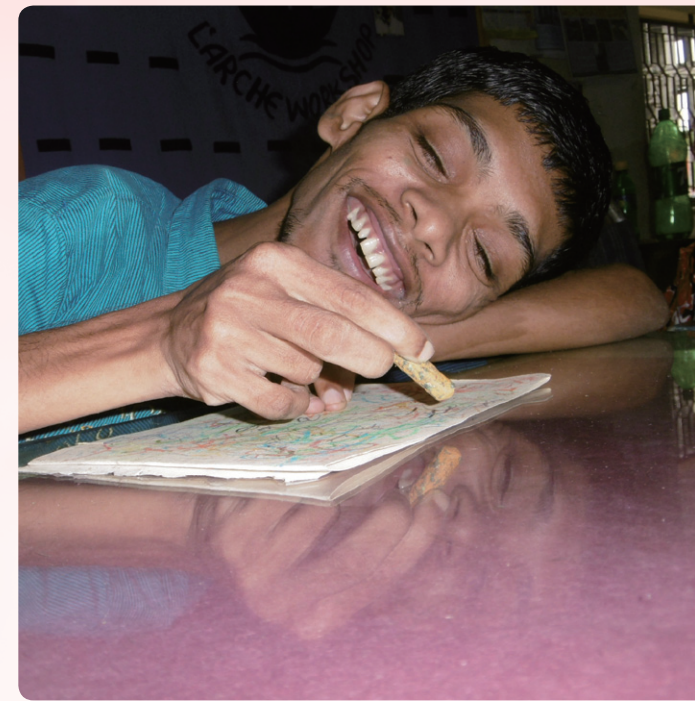
この電話の主は、ジョシムの弟を養子にした女性、ジョティであった。ジョシムはラルシュのメンバーで、「希望の家」に暮らす。18年ほど前、ジョシムと弟のジョイ、そして彼らの母親はチッタゴン駅の構内で暮らしていた。3人はそこからシャバール県の収容施設に迎えられたが、病身の母親はそこで亡くなる。健やかな弟ジョイは、その施設を訪問したカナダ在住のベンガル人夫妻に養子として引き取られる。ジョティはその際、障がいのある兄ジョシムを気にして、Bangladeshで会社を経営する自分の叔父にジョシムのことを頼んでいった。それ以後この叔父はジョシムのことを気にかけてくれ、何の血縁関係もないジョシムの叔父さんとな

り、この施設が閉鎖されジョシムがラルシュに迎えられたあとも連絡を絶つことなく、今もって私たちの友である。私たちの願いを知り、ジョティとの仲立ちをしてくださったのは、この叔父さんである。

ときどき電話をくださる。「ジョシム、元気かい?!」と叔父さんの大きな声がすると、ジョシムは口を開け、満面の笑みでアーと答える。数年前、Bangladeshでテロ事件があり日本人が亡くなったとき、「心配するな、自分たちがあなたを守るから。何かあったらすぐに自分に知らせなさい」と真っ先に電話をくださった。先日は「コロナには参った。ここ数カ月で一千万タカの大損だ!一千万タカだぞ!」と言いながら「ジョシムは元気か?」と安否を問うてくださる。「今もまだ半自主隔離なんです。でも毎週電気自動車ドライブに出かけたり、オンラインで歌のクラスをしたりしています」と答えると、「バロバロ(良し良し)、それが良い。でもまだ気をつけた方がいい」と安堵して電話を切られた。

ジョティは最初の電話以来、ジョシムの叔母さんとなり、電話やメールで連絡をくださる。言葉なくともジョシムは一連の出来事をととてもよく理解し、大きな笑顔でアーと歓喜の声をあげる。

ジョシムの叔父さんと叔母さんが彼に与え



てくださったものは、夢と希望である。そして、それは共に暮らす私たちの夢と希望でもある。いつかジョシムがジョイと再会できるかもしれないと想像するだけで、身体中がしびれるような喜びを感じる。それが何年先のことになるかは関係ない。誰かがジョシムのことを大切に思い、心にかけて、再会できることを望んでくださっている、そのことだけで十分なのだ。

新型コロナのために、ラルシュの3つの家は3月下旬以降自主隔離が続いている。自由に出かけられない不自由さはあるが、心は世界中を駆け巡ることができる。ささやかな夢と希望があれば十分である。そしてそれを与えてくれるのは、ジョシムの叔父さんと叔母さんのような、優しい心遣いである。



新型コロナウイルス感染症対策 緊急支援



感染症患者を治療する
GKSTシナルカン病院のスタッフ

JOCSの活動地では、現地の協力団体が、貧しく弱くされた人々への保健医療活動を続けています。新型コロナウイルスの感染拡大により、それら協力団体はさまざまな困難に直面しています。JOCSは今年度、協力団体からの要請に応え、感染症対策のための支援をおこなっています。今年6月には、JOCS奨学生が多く所属するインドネシア・GKSTシナルカン病院へ、医療用防護服や感染者の隔離施設の整備を支援しました。

ご支援くださっている
方々の声

JOCSの活動をとおり、日本で普通に生活していたら分からない、海外医療のことを考える機会が得られました。目の暮らしだけではなく、広い視野が開けます。(男性、40代、支援者)

使命感を持ったワーカーの方々のお働きに感動を覚え、アジア、アフリカの現実を知らせていただいています。新型コロナウイルス感染症が全世界に拡散されている今、60年の歩みを土台に、JOCSの存在はますます必要とされると思われます。(女性、70代、会員)

ご寄付の方法

郵便振替

ゆうちょ銀行

口座：日本キリスト教海外医療協会
募金部 00170-3-13986

銀行振込

三井住友銀行 高田馬場支店 日本キリスト教海外医療協会

口座番号：普通 4186361

銀行からのお振込やネットバンキングでは、JOCSには口座名義人の名前しか通知されません。ご送金の際には、お名前、ご住所、電話番号をメール(info@jocs.or.jp)またはFAX、郵送で東京事務局まで必ずお知らせください。

口座振替

月々1,000円から。

申込書が必要になります。東京事務局へお申し出ください。またはJOCSホームページ(https://www.jocs.or.jp/support/member/ippan/postoffice_transfer_auto)からダウンロードしてください。

クレジットカード

月々500円から。

ホームページ(<https://www.jocs.or.jp/>)右上のオレンジ色のボタンからお手続きください。



📎 当会へのご寄付、サポート会員の会費は、特定寄付金に該当し、寄付金控除を受けることができます。

📎 遺産のご寄付に関するパンフレットがございます。ご希望の方は、東京事務局までご連絡ください。

*当会へのご寄付、会費は8割が事業費、2割が管理費として使われます。

個人情報の取り扱いについて 当会は、皆様の個人情報を厳重に管理・保護するとともに、その取扱いにつきまして「個人情報の保護に関する法律」及び関連する法令その他の規範を遵守し、プライバシーの保護を行っています。詳しくはJOCSホームページの「個人情報の取り扱いについて」(<https://www.jocs.or.jp/privacy>)をご覧ください。

JOCS役員	会 長	畑野研太郎 (医師)
	常務理事	大友宣 (医師)
	理 事	植松功 (自営) 小宅泰郎 (医師) 川北かおり (医師) 久保礼子 (言語聴覚士) 名取智子 (JOCS事務局次長)
		本田まり (大学教員) 森田隆 (JOCS事務局長) 柳澤理子 (保健師、大学教員)
	監 事	樺木恵子 (団体役員) 渡部芳彦 (歯科医師、大学教員)

公益社団法人 日本キリスト教海外医療協会

ホームページ <https://www.jocs.or.jp> E-mail info@jocs.or.jp

東京事務局 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-51 電話：03-3208-2416 FAX:03-3232-6922

関西事務局 〒530-0013 大阪府大阪市北区茶屋町2-30 大阪聖パウロ教会3階 電話：06-6359-7277 FAX:06-6359-7278

ご入会のお願い

JOCSサポーターとして、 医療を通じて、 世界の人々と共に生きませんか？

同封の払込票の「サポート会員になります」に☑を記入ください。会員には、会報誌『みんなで生きる』(隔月発行)をお届けするほか、活動報告会・イベントなどをご案内します。

社団法人としてのJOCSを構成する「社員会員」という制度もあります。社員会員をご希望の方は、同封の払込票の余白に「社員会員」とご記入ください。

※社員会員は、総会の議決権、理事の選挙権及び被選挙権を持ちます。
※社員会費は寄付金控除の対象とはなりませんので、ご了承ください。
※社員会員の名簿は「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」に基づき、内閣府に提出します。